

購読者に電子メールで送信したものをそのまま掲載しています。等幅フォントでお読みください。

---

< C U E > 利用教育委員会通信 第 68 号 (18 巻 3 号) 2007. 11. 5 発行

---

■■■■ ■ ■■■■ 利 用 教 育 委 員 会 通 信  
■ ■ ■ ■ ■ 日 本 図 書 館 協 会 図 書 館 利 用 教 育 委 員 会  
■■■■ ■■■■ ■■■■ JLA The Committee of User Education

---

- ・ 「< C U E > 利用教育委員会通信」は、日本図書館協会図書館利用教育委員会の最新のニュースをお伝えするメールマガジンです。
  - ・ < C U E > とは、Committee of User Education の頭文字です。英語の「cue」はスタートの合図の意。利用教育の普及への願いを込めた誌名です。
  - ・ 利用教育関連の情報をお寄せください。
  - ・ メールマガジンに関するご意見、ご要望はこちらへ。cue@jla.or.jp
- 
- 

□ 目次

- (1) 第 9 回図書館総合展フォーラム講演会のお知らせ
  - (2) エッセイ
  - (3) 企画広報研究分科会からのお知らせ
  - (4) 編集後記
  - (5) 利用教育委員会委員
- 
- 

- (1) 第 9 回図書館総合展フォーラム講演会のお知らせ

● 2007 年 11 月 8 日 (木) 15:30~17:00

情報検索指導における良い例題・悪い例題 (応用編)

— 論文データベースの特徴をどう紹介するか —

— 情報専門職の指導力を講習会でアピールしよう! —

講師: 仁上幸治 (早稲田大学図書館)

好評の初級編・中級編に続き今回は論文データベースの各特徴を適切に紹介する例題の作り方を取り上げる。講習会担当者同士で、自慢の例

題，困っている点などの情報を交換し，《例題バンク》による共有と活用を目指す。

- 会 場：パシフィコ横浜 図書館総合展フォーラム第 5 会場  
<http://www.pacifico.co.jp/>
  - 対象者：図書館職員、教職員、JLA 会員、関係団体の情報検索講習会等担当者
  - 主 催：日本図書館協会
  - 参加（資料）費：会員 500 円／非会員 1000 円
  - 定 員：200 名（当日受付あり。直接会場にお越しください。）
- 

## (2) エッセイ

### 図書館新館見学報告

—創造する空間としての多摩美術大学八王子図書館—

戸田光昭（駿河台大学名誉教授）

図書館利用教育委員会の委員が中心になって，2007 年春に開館した新しい図書館を見学した。これは，多摩美術大学創立 70 周年記念事業の一環として計画され，美術大学の新しいスタートに相応しい事業として完成したものである。図書館という場所が「知の収集だけでなく，情報発信を，更には私たちを取り巻く常に変化する事象そのものとして存在しえる」ことを目指したもので，その意図は達成されつつあると，見学して感じた。

訪問して，まず，感動したことは，図書館入口の 1 階の床が水平になっておらず，地面の傾斜のままに，緩やかな坂になっていることである。建物の外と内の地面が一体化しているのである。1 階には雑誌の最新号を展示し，ブラウジングできる「マグテーブル」のコーナーや，映像閲覧のための「メディアバー」「メディアシート」がある。これは緩い斜面に，自然に配置されている。坂になっているという説明がなければ，意識できないほどの緩さである。

このような建物はバリアフリーの時代に適合しない図書館であると言われそうであるが，現地を見ればそうではないことがわかる。キャン

パス全体が多摩丘陵の傾斜地に位置しているため、学内を移動するのは健常者でもきついのである。そこで、校地内を移動するのに、電動自転車を研究室に準備した教授もいるとのことである。身体障害者用には電動車椅子を用意しておけばよい。

1階雑誌コーナーのさらに右奥の窓際には、大きなラウンジカーペットが置かれている。3000mm×8000mmのフェルト状のソファであり、利用者はゆったりと身を投げ出して落ち着くことができる。実際に、仰向けになって身を任せた人は、天井に星が見えたそうだ。まさに、〈図書館の創造的な利用法—コミュニケーションとブラウジングのためのインタラクティブデザイン〉となっている。

この新図書館を紹介した本が話題になっている。日経新聞読書欄でも紹介された。それは、『つくる図書館をつくる—伊東豊雄と多摩美術大学の実験』鈴木明，港千尋，多摩美術大学図書館ブックプロジェクト編，2007年7月 鹿島出版会，190p. 2,500円（税別）である。本書のようなデザインコンセプトを中心に、図書館を実験的に、しかも実証的に取り扱った本が、これからも、多数出版されれば、日本の図書館界はさらに活発化するであろう。

そして、この図書館を見学して感心したことは、この本に掲載されている思想とデザインが実際に現場で生かされていることである。そのまま採用されているものもあるということである。館内サイン（案内図や案内板）は本書に掲載された図版が巧妙に生かされているし、図書館利用案内や見学者用の小冊子にも、写真を含めて取り入れられている。美術大学でなければできないような応用が現場にも採用されていることに、感激もしたのである。

---

### (3) 企画広報研究分科会からのお知らせ

図書館広報グッズ「本の葉」と「ビニールバッグ」製作・販売  
のご案内（私立大学図書館協会企画広報研究分科会）

私立大学図書館協会企画広報研究分科会では、図書館のイメージアップ並びに利用者増を図るため、広報グッズの製作を行っております。今年度はデザインをリニューアルした「本の葉」と、雨の日に本を入れら

れる「ビニールバッグ」を製作・販売いたします。イラストは、書籍・雑誌のイラストで活躍中の石川ともこ氏が手がけています。サンプルや申込方法については、下記のホームページにてご案内しています。

企画広報研究分科会ホームページ

<http://www.jaspul.org/e-kenkyu/kikaku/>

私立大学図書館に限らず、国公立大学、短期大学、および公共図書館からの申し込みも大歓迎です。ぜひお申し込み下さい。

申込締切：2007年12月21日

問合先：私立大学図書館協会東地区部会研究部 企画広報研究分科会

E-mail：kikaku@jaspul.org

---

#### (4) 編集後記

第68号をお届けします。今号では、第9回図書館総合展フォーラム講演会のお知らせを掲載しました。関心のある方はぜひご参加ください。

(春田)

---

#### (5) 利用教育委員会委員

(委員長)

青木 玲子 : 埼玉県男女共同参画推進センター

(委員)

赤瀬 美穂 : 京都産業大学図書館

有吉 末充 : 京都学園大学人間文化学部メディア文化学科

石川 敬史 : 工学院大学図書館

木下 みゆき : 大阪府立女性総合センター情報ライブラリー

戸田 光昭 : 駿河台大学名誉教授

野末 俊比古 : 青山学院大学文学部

春田 和男 : 筑波大学大学院博士課程

和田 佳代子 : 昭和大学歯科病院図書室

久保木いづみ : 日本図書館協会事務局

・ バックナンバー

<http://www.jla.or.jp/cue/>

・ 配信登録・変更・解除・お問い合わせ

[cue@jla.or.jp](mailto:cue@jla.or.jp)

※本紙は Yahoo! Groups を使って発行していますが、日本図書館協会および当委員会、ならびに本紙の内容と Yahoo! とは関係がありません。

---

---

[戻る](#)